教師の相互作用行動に関する事例的検討

近野　洋平（生涯スポーツ学科　学校スポーツコース）

指導教員　南島　永衣子

キーワード：相互作用,小学生,形成的授業評価

1.緒言

平野ら（2011）は授業中の教師行動の「相互作用行動」の効果を①教師の「相互作用」の出現頻度と児童の受けとめかた,②教師の助言に対する児童の受けとめかたと子どもの形成的授業評価との関係という 2 点から研究している.その中で,教師から助言を受けた児童は形成的授業評価が高くなることを明らかにしている.

また,スキャモンの発達曲線から中学校の体育授業ならびに教師の相互作用は,児童の心身の発育発達に重要な影響を及ぼしていることが考えられる.

以上のことを踏まえ,本研究では教師の助言の有無と,形成的授業評価との関係性を明らかにすることを目的とした.

2.研究方法

1)調査対象

彦根市立 K 小学校 6 年 2 組　28 名（男子 13 名女子 15 名）

2)対象授業

全 4 時間単元のボール運動のベースボール型授業を対象とした.

3)分析方法

児童には高橋ら（2003）によって標準化された形成的授業評価をさせた. また授業中における教師の相互作用行動について,VTR で収録し,記録分析を行い高橋（2003）が作成した「教師の相互作用行動の観察コーディングシート」を使用し集計をした.

3.結果と考察

助言に対する受けとめ方と形成的授業評価の関係から,助言を受けた児童はそうでない児童と比べ形成的授業評価に有意な向上を示すことが明らかとされた.

特に「意欲・関心」の項目 4(t 値=0,22)及び項目 5(t 値=0,26)で有意な差が見られた.つまり教師の助言が児童の「意欲・関心」といった気持ちの面に有効であることが示唆された.それに加え,児童が友だち同士にアドバイスをして,「協力」の項目 8(t 値=0,09)及び項目 9(t 値=0,04)にも影響したのではないだろうか.

表1,教師の助言の有無と形成的授業評価の関係

形成的授業評価 ＼ 助言の有無		助言を受けた n=25		助言を受けないn=53		t値	
		M	SD	M	SD		
成果	項目1	1.88	0.53	1.98	0.73	0.75	
	項目2	2.40	0.70	2.22	0.75	0.30	*
	項目3	2.60	0.65	2.40	0.70	0.20	*
意欲・関心	項目4	2.76	0.52	2.60	0.56	0.22	*
	項目5	2.56	0.58	2.40	0.64	0.26	*
学び方	項目6	2.44	0.58	2.25	0.57	0.18	*
	項目7	2.48	0.65	2.52	0.56	0.77	
協力	項目8	2.72	0.46	2.51	0.64	0.09	**
	項目9	2.48	0.59	2.17	0.71	0.04	**
総合平均		2.48	0.58	2.34	0.65		
総合		22.76	2.49	21.06	2.69	0.07	**

*P<0.5**P<0.1

4.結論

教師の助言の有無と,形成的授業評価との関係性から,「助言を受けた」児童は形成的授業評価が高くなることが明らかになった.またスキャモンの発達曲線の神経系がピークを迎える 12 歳という年齢にも相互作用は有効ということが確認された.